

子どもの貧困を知り

豎 十萌子 (埼玉中央法律事務所 弁護士)

反貧困ネットワーク埼玉 事務局長)

昔から気が強く、女性の権利を守りたい、向上させたいと願っていました。よって、担当する事件の中でも、女性事件(離婚、DV、労働事件等)は特に燃えます。男女問題の知識だけはやたらと豊富になってしまいました。もうどの男性も信じることは出来なそうです(涙)。

弁護士になった当初、貧困問題は、正直全くピンと来ていませんでした。私は、ずっと自己責任論者でした。成功した人は努力の結果だ、成功しない人は努力不足だ、そう信じて疑っていませんでした。その考えは、弁護士になり反貧困活動の中で現実を見て、違ったと明確に気がつきました。今は、世の中にあらゆる不公平さの存在を感じます。中でも、特に不平等を感じ、世の中の不公平さをもらたしている根幹と感じるのは、子どもの貧困、不平等さです。日々接する子ども達を前に、人生のスタートが全く平等ではない実態を痛感しています。私に子どもの貧困を教えてくれたのは、反貧困活動の中で出会ったさいたま教育文化研究所の白鳥勲先生です。皆さまにとっては当たり前であろう子ども達の不平等さを、正直、私は今まで感じていませんでした。私と同じように司法試験に合格し、そのまま貧困問題に関わっていない法律家達は、世の中の不平等を感じない自己責任論者のままの可能性ががあります。悲しいし、怖いことですね。

女性事件を扱っていると、その背後にいる子ども達もとても愛しく、そしてとても心配に思うようになりました。お母さんが抱える経済的・関係的・知識的貧困や精神的・身体的損害・負担等は、ダイレクトに子ども達に響いています。勉強なんか全然出来る環境で育っていないんです。白鳥先生からはずっと現状を教えられていましたが、今は私も肌で感じるようになりました。子ども達は社会の宝であり、スタートの不平等を少しでも無くしたいと願わずにはいられません。あらゆる貧困や負担を少しでも軽減出来る場として、女性や子どもが集まり、思いっきり話したり遊んだりできるコミュニティの場が欲しいと思っていました。そしてやっと、今年から、離婚やDV、子育て等で悩んでいる女性と子ども達が集まって、元気になる会「はぐたまカフェ」を始めました。企画者には、弁護士、助産師、社会福祉士、保育士、DV支援団体の方々等、幅広い構成員で成り立っています。毎回大盛況です。同じ悩みを持つ人達が集まることの重要性、多くの専門家が集まる必要性を実感しています。今は、子ども達に勉強を教える場も広げていきたいのです。是非、皆さま先生方や、ボランティアに興味のある学生さん達ともネットワークを作っていきたいと切に願っています。

最後になりますが、DVや離婚に至った男性の側の傷や原因も考えます。背景に潜むのは、貧困や世の中そのものです。やはり、結局は、反貧困、生きやすい世の中を考えていなければならぬのです。